

る事である。思ふに庶民教育は江戸時代に限つたわけである。まい。寺子屋が江戸時代に盛んであつたからそれを主として叙述しながら、かゝる題目を擇ばれたのは、如何かと思ふ。廣義に解すれば庶民教育は太古から有つた筈であり、現に組織的な學校教育らしい庶民教育が奈良時代にあつた確證さへある。書名と内容とが一致しないやうに思ふ。

しかし此等は本書全體の微瑕である。本書の眞價はその大なる集成にある。多くの故老から、多くの先賢の著作からの蒐集こそその綜合研究にある。多少の傷は誰の著にもある。其れは本書の眞價を下げるものではない。しかし本書の價値の大なる程、傷がよく眼につくものである。良書を惜しむのあまり無禮を省みず、評言を列擧したわけである。(高橋)(東京目黒書店發行、菊版三冊約三二〇頁、定價參拾五圓)

彙報

哲學茶話會

西田博士の近著「一般者の自覺的體系」の内容に就いての解説を博士に依頼し、去る一月十八日土曜よりその後毎週土曜に數回繼續して、午後一時半より文學部第九教室に於て講義を開催す。

尙一月十八日夜樂友會館に於て、來る三月卒業すべき人々の

環鏡會を行ふ。

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌	昭和五年一月	五一五號
丁酉倫理會講演集	同 一月	三七七號
教育問題研究	同 一月	四二號
學校教育	同 一月	一九九號
哲學と文藝(哲學青年改題)	同 一月	二卷一號
生理學研究	同 一月	七卷一號
社會學徒	同 一月	四卷一號
信濃教育	同 一月	五一九號
宗教と藝術	同 一月	一一卷一號
帝國大學新聞	同 一月一日	

寄贈圖書

宗教學概論	カーペンター著 増谷文雄譯	四六版二七六ページ 定價一・八〇圓
スピノザの哲學	(神の認識の問題) を中心として 稲富榮次郎著	菊版二二二ページ 定價一・九〇圓
光明藏	安岡正篤編著 渡邊敏夫註釋	東京理想社出版部出版 菊版四〇ページ 定價二・五錢
	以上	東京理想社出版部出版 金鷄學院出版